

(款) 10総務費 (項) 5総務管理費 (目) 10文書広報費

◎広聴活動の経費

広聴事業

【 市民相談課 】

【総合計画上の位置づけ】

計画の推進

市民参画・協働の推進

【事業の目的】

対象 市民

意図 市民要望を把握し、今後の行政計画に反映させるとともに、市政全般について理解を深めてもらうため。

効果 市民と行政の相互理解を深め、円滑な市政運営に資する。

【事業の内容】

(1) 広聴事業

- ・ 市政モニター事業は、任期は2年で、単年度15名の選任で計30名。研修会、施設見学、市長との懇談会、課題別研究会活動などを実施した。
- ・ ふれあい地域懇談会を5地域7会場で実施した。出席者は自治町内会長等。その他に、「市長と話す会」、「市長と語ろう まちかどトーク」を開催した。
- ・ 公募一般市民、希望団体が参加する、市民施設めぐり事業を7回実施した。

【事業費】

(単位:千円)

当初予算額	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額
703	703	633		70
主な支出内訳				
・ 広聴事業				
市政モニター謝礼				311
保育ボランティア謝礼				54
ふれあい地域懇談会テーブル反訳委託料				188

事務事業評価シート

事務事業 No./名 称	■サービス部門 経企-09 広聴事業 □支 援 部 門							
事務事業 単 位	ザイムス コード及び 個別事業 名	455 市政モニター、市民施設めぐり等						
主管課	市民相談課			関連課				
分野名	市民参画・協働の推進							
目標 (目標値)	市政に関する意見・要望などを聴き、市政に反映させるため広聴活動の充実を図る。							
人口等の データ	データ区分	20年度	19年度	18年度	備 考			
	人 口	176,484人	175,902人	175,051人	・各年4月1日			
	世 帯 数	77,430世帯	76,536世帯	75,611世帯				
運営資源 状 況	決算値	633千円	775千円	524千円				
	(国・県)							
	(負担金等)							
	(一般財源)	633千円	775千円	524千円				
	人員配置数	2人	2人	2人				
	人 件 費	18,037千円	18,141千円	18,205千円				
	協 働 の パートナ	市政モニター等市民、自治 町内会連合会	市政モニター等市民、自治 町内会連合会	市政モニター等市民、自治 町内会連合会				
事務事業 運営経費	総事業費	18,670千円	18,916千円	18,729千円				
	市民1人当 りの経費	106円	108円	107円				
	対象者1人 当りの経費							
19年度事務事業の変更点(新規・廃止・縮小した個別事業)/事業仕分けの視点による妥当性の評価								
個別事業名	変更額(千円)	事業の変更点・変更理由			妥当性※	※妥当性の評価 ① 必要性なし ② 民間 ③ 国・県 ④ 現行どおり(鎌倉市)		
指 標	評価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(23年度)	
「ふれあい地域懇談会」 の出席人数	○	目標値	181人	181人	181人	181人	181人	
		実績値	155人	169人				
指 標	評価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(23年度)	
「市民施設めぐり」の出席 人数	×	目標値	120人	120人	120人	120人	120人	
		実績値	118人	96人				
指 標	評価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(23年度)	
広聴業務に要する経費	◎	目標値	662千円	703千円	796千円	796千円	796千円	
		実績値	775千円	634千円				
指 標	評価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(23年度)	
課内研修の実施	×	目標値	年11回	年11回	年11回	年11回	年11回	
		実績値	年11回	年10回				
評価 ◎:目標を達成 ○:目標に向かって前進している △:横ばい ×:後退している ベンチマーク(県内外自治体や民間団体との比較値)								
団体名	平塚市	鎌倉市						
市政モニター予算 (20年度予算)	605千円	410千円						
	※現在、本市と同様のモニター制度を取り入れている市。							

事務事業評価シート

創意・工夫・課題等改善状況	課題・問題点	(20年度事務事業を実施するうえでの課題・問題点は、どのようなことでしたか) (1)ふれあい地域懇談会の拡大開催については、区域を分割し回数を増やすことにより、地域の問題について掘り下げた意見交換ができるが、現在の自治・町内会の構成にも配慮し、区域設定を図る必要がある。 (2)市政モニター制度の見直しについては、効率的で効果の高い制度への転換が必要である。
	創意・工夫・課題等の改善点 20年度の成果	(課題・問題点についてどのような創意工夫、改善をしましたか。また、どのような成果がありましたか) (1)ふれあい地域懇談会の拡大開催については、平成20年度から鎌倉地域について、3地区に分割して実施した。 (2)市政モニター制度の見直しに向けて県内各市の情報収集に努めた。その結果、本市と同様な制度を取り入れている市は、現在、平塚市のみであり、他市においては既に「見直し」や「廃止」を行っている。
	未解決の課題・問題点	(20年度事務事業の取組において対応(解決)できなかったものはどのようなことですか) (1)拡大開催を進めるには、地区連合会ごとの集まりを分割することになるため、混乱が生じないよう区域の設定を図ることが課題である。 (2)効率的なモニター制度を創出するための課題の整理に苦慮している。
	今後の方針 (対応・改善)	(上記対応できなかった課題・問題点について今後どのように対応(改善)していきますか) (1)ふれあい地域懇談会については、平成20年度から鎌倉地域を3分割により実施し、平成21年度は参加者の増加を図る。この2年間の状況を把握し、他地域において、どのような形態での開催が有効であるか検討する。また、「地域コミュニティの活性化」に向けた取り組みについて引き続き注視する。 (2)市政モニター制度については、県内で本市と同様のモニター制度を実施する市が平塚市のみになったことを踏まえ、他市の市政モニター制度の考え方等について情報収集を行い、効率的な制度の創設に向け検討していく。

一次評価(課長評価)

今後の方向性	A:充実又は拡大 B:現状のまま継続	C:統合又は縮小 D:廃止又は休止	B	改善の必要性 有
	広聴業務は行政に対して市民が直接、意見や要望を伝えることができる市民参画の手法の1つである。引き続き、各事業のあり方や内容の見直しを検討しながら、効率的な広聴業務を構築していく。直面する課題として、市政モニター制度のあり方をまとめる必要がある。			
担当課長氏名:		征矢 剛一郎		

二次評価(部長評価)

今後の方向性	A:充実又は拡大 B:現状のまま継続	C:統合又は縮小 D:廃止又は休止	B	改善の必要性 有
	広聴事業は、市民ニーズを的確に把握し、市民参画の推進を図るための事業であり、その実施手法によっては、市民と行政との関係性にもつながる事業である。今後も広聴事業のあり方を踏まえながら、必要に応じて制度の改善も実施し、着実に事業を進めていく。			
担当部名	経営企画部	部長名	小村 亮一	